

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-56435

(43) 公開日 平成9年(1997) 3月4日

(51) Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 B 11/02			A 4 5 B 11/02	
A 4 5 C 13/40			A 4 5 C 13/40	
A 4 5 F 3/04			A 4 5 F 3/04	

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-256703

(22) 出願日 平成7年(1995) 8月29日

(71) 出願人 391065703

井口 達也

京都府京都市北区北野西白梅町85番地

(72) 発明者 井口 達也

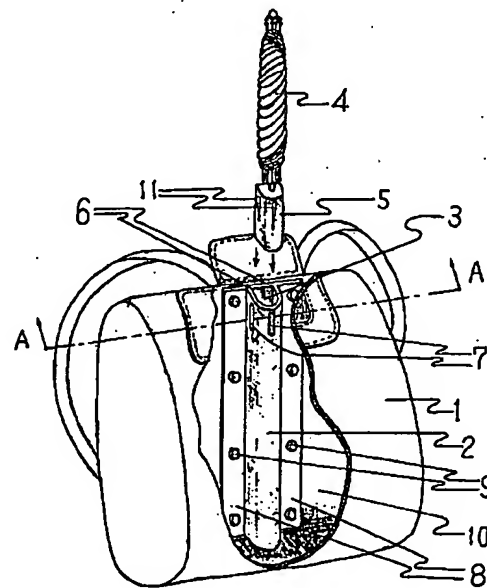
京都市北区北野西白梅町85番地

(54) 【発明の名称】 傘差しリュック

(57) 【要約】

【目 的】リュックを背負って出れば傘は常時携帯できるし、当該傘はリュックが人の手に代わって差してくれるので、人は雨や炎天下においてでも、雨除け、日除けを果たしながら常に両手どもの自由を確保できる傘差しリュックを提供する。

【構 成】リュック1内部の背板2に対し、位置ずれ防止ポイント3を含む水平断面4が連続する中空筒で、上端開口、下端閉塞の傘差し具7を、当該傘差し具7の背部壁面8に係設してあるリュックへの係着具9によって係着なし、前記傘差し具7の中空筒内に、前記水平断面4と適合する水平断面が連続する棒状の傘柄5を先端に傘6全体を摺動自在の状態に嵌入なし、傘差し具7に穿設してある傘係着具受け孔10に対し、傘柄5に弾設してある傘係着具11に係着する構成である。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】リュック(1)において、リュック(1)の背板(2)に対し、位置づれ防止ポイント(3)をその形状中に含んだ水平断面(4)が、同一的に連続することによって形成される中空筒で、上端が開口し、底部が閉塞なし、傘柄(5)を含む傘(6)を収納可能な容積を有する傘差し具(7)を、当該傘差し具(7)の背部壁面(8)に係止してあるリュックへの係着具(9)によって係着なす。水平断面(4)を形成している前記傘差し具(7)の中空筒内に対し、当該水平断面(4)に適合する水平断面を同一的に連続することによって形成される棒状の傘柄(5)を先頭に傘(6)を摺動自在の状態に嵌入する。傘差し具(7)の周壁中で、前記傘柄(5)の係着を希望する位置に穿設した必要数の傘係着具受け孔(10)に対し、傘柄(5)を当接した時に、傘柄(5)の周囲面が前記傘柄係着具受け孔(10)に当接する位置には、公知のバネ式の傘係着具(11)を弾設したことを特徴とする、傘差しリュックである。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】リュックを背負って外出するだけで、傘は忘れることなく常時携帯できるし、当該傘はリュックが人の手に代わって差しかけてくれるので、人は雨、炎天下等どんな天候の日でも、常に両手ともの自由を確保できる傘差しリュックを提供せんとするものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来のリュックは、人が背負うので、人の両手は自由になるということを最大の効用としてアピールされ、アウトドアのレジャー用その他に爆発的な人気を得ているところであるが、リュックは元々物品携行具に過ぎず、傘との関連性は皆無であったところから、前述の効用も決して無条件なものではなく、雨天、雪降り、炎天下等どうしても、傘を差さねばならない天候条件のもとにおいては、傘の為に少なくとも片手はふさがってしまい、抱いている赤ちゃんの介護であるとか、魚釣り中の餌付け、釣はづし、或は戸外スポーツ観戦中の飲食等必ず両手を必要とする作業に当面した場合には、一時的にせよ雨除け、日除けを犠牲にしない限り、それ等の作業は不能であり大変な不便を強いられていたのである。更にいうならば従来のリュックを背に外出していても、傘自体を携帯できているとは限らず、天候の急変にうろたえる不便性も決して軽視できるものではない。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のリュックは、人間が背負うことにより、荷物を手に提げる必要がなくなり、両手を開放してくれる、或は一つでも多くの荷物が持てるという利点が存したので、最近とみに愛用

2

され始めている。しかしながら現在のリュックは傘自体とは何の関係も持つものではないので、雨除け、日除けの為に傘を差さねばならなくなると、「両手とも自由だ」という折角の長所があえなく消滅してしまうのである。そこでいかなる天候条件の下においても、「両手とも自由だ」という、リュック最大の長所を失わせない為には、どうしたらよいかという点が、解決しようとする課題である。

## 【0004】

【課題を解決する為の手段】この発明は、傘差しリュックに関するもので、前項に記載した要解決課題を解決するために、リュック1において、リュック1の背板2に対し、位置づれ防止ポイント3をその形状中に含んだ水平断面4が同一的に連続することによって形成される中空筒で、上端が開口し、底部が閉塞なし、傘柄(5)を含む傘(6)を収納可能な容積を有する傘差し具(7)を、当該傘差し具(7)の背部壁面(8)に係止してあるリュックへの係着具(9)によって係着なす。水平断面(4)を形成している前記傘差し具(7)の中空筒内に対し、当該水平断面(4)に適合する水平断面を同一的に連続することによって形成される棒状の傘柄(5)を先頭に傘(6)を摺動自在の状態に嵌入する。傘差し具(7)の周壁中で、前記傘柄(5)の係着を希望する位置に穿設した必要数の傘係着具受け孔(10)に対し、傘柄(5)を当接した時に、傘柄(5)の周囲が前記傘柄係着具受け孔10に当接する位置には、公知のバネ式の傘係着具11を弾設したことによって解決したものである。

## 【0005】

【作用】本発明は、前述の手段を講じたので、傘差し具7の背部壁面8をリュックへの係着具9でもって、リュック1内部または外部の背板2または側板へ係着することによって、両者は一体化することになり、傘差し具7の作用は即ちリュック1の作用に置き換え得ることになった。また傘差し具7の中空筒内で傘柄5に上下運動をさせると、円筒では決してないが丁度シリンダーとピストンのような相関作用を呈することになり、位置づれ防止ポイント3が傘差し具7の縦方向に、傘柄5の上下運動に対してガイドラインを形成する作用をもたらすので、傘柄5は常に同一軌跡を画いて上下に運動することになり、傘差し具7の周壁中に設けられている傘係着具受け孔10の位置には、傘柄5の傘係着具11が常時必ず通ることになり、傘柄5をその位置まで引き上げると、傘係着具11は必ずバネ作用を発して傘係着具受け孔10の中に弾入する。そうすると上向方に抵抗する性質の傘係着具11は、ストッパー作用をもたらし、それ以上の引き上げ力に抵抗するので、傘柄5はその位置で係着作用を完了することになり、相当な風圧でも加わらない限り傘柄5が傘差し具7の中からずば抜けることは絶対にない。このことは傘差し具7が人の手に代わ

って、傘6を差ししてくれることになり、ひいてはリュック1が傘6を差しかけてくれる作用を果たしているのである。なおリュック1即ち傘差し具7の背部壁面8を背中に平行させて背負う人は少なく、大抵の人は背部壁面8の下端のみを背中に密着させて、上端に向かって進むほど背中より開き離れているので、このまま傘を差すと人の頭より遙か後方に行き過ぎ効率も悪く風も受け易い。そこで第2実施例の傘差し具修正器12を用いると、開く角度が正反対に実施されているので、前述の如くリュック1を振り返らせて背負っていても、傘差し具7その物は、角度が中和され修正されているので、背中に平行する作用が得られ、そのまま傘を差しても頭の後方直近の所で差すことができるのである。

#### 【0006】

【実施例】以下本発明の実施例を図面に従って説明する。図1は〔0007〕に示す実施例における傘と、一部を破断したリュックとの相関関係を示す斜視図である。図2は1をAA線で矢印の方向に切断した断面図である。図3は〔0007〕に示す実施例を人が利用している状態を示す斜視図である。図4は〔0008〕に示す実施例の傘差し具修正器の斜視図である。

【0007】図1ないし図3に示すものは、第1の実施例であって、リュック1やディバック等背負袋において、リュック1内部または外部の背板2または側板に対し、位置ずれ防止ポイント3をその形状中に含んだ水平断面4が同一的に連続することによって形成される中空筒で、上端が開口し底部が閉塞しており、傘柄5を含む傘6を収納可能な容積を有する傘差し具7を、合成樹脂、プラスチック、硬質ビニール、木、金属等硬性を有する素材を用いて成型または形成なすことによって、中空筒の縦方向には、位置ずれ防止ポイント3の連続によってガイドラインが形成されている傘差し具7が全体として形成される。そこで当該傘差し具7の背部壁面8はリュック1の背板2に係着または固着し易い板状に形成するとともに、必要数の孔を適当箇所に穿設なし、ボルト&ナットのごときリュックへの係着具9を予め係止しておくとともに、当該リュックへの係着具9を用いて傘差し具7をリュック1内部の背板2に係着または、かしめによる固着をなすことによって両者を一体化させる。次いで水平断面4を形成している前記傘差し具7の中空筒に対し、当該水平断面4に適合する水平断面を同一的に連続することによって形成されている前記傘差し具7と同様の素材でもって棒状に成型または形成された傘柄5を先頭に傘6を、摺動自在の状態に上下運動が可能のように嵌入する。更には前記傘差し具7の周壁中で上端開口部の近く等適切な位置で、傘柄5の係着を希望する位置には、必要数の傘係着具受け孔10を穿設しておき、当該傘係着具受け孔10に対し傘柄5を当接させた時点において、傘柄5の周囲面が傘係着具受け孔10に当接する位置には、上向力に抵抗なし、下向力に順応す

る公知のバネ式の傘係着具11を弾設なすことによって、傘柄5ひいては傘6が、傘差し具7ひいてはリュック1に係着することを特徴とする傘差しリュックである。

【0008】図4に示すとおり、〔0007〕に示す実施例の傘差し具7をリュック1に係着するに当たり、俯角をもたせる修正器具であって、平面形状は傘差し具7の平面形状と同一であるが、その厚みは平板でなく、上端より下端に向かって下降するに従って順次肉厚構造となし、三角形の楔形断面を形成した傘差し具修正器12であり、これを傘差し具7の下に楔状に敷き込んで一緒にリュック1の内部背板2に係着なすべく実施した傘差しリュックである。

#### 【0009】

【発明の効果】本発明によって雨傘も日傘も、共にリュックが人の手に代わって差しかけてくれることになったので、長時間に及ぶ傘差しても人の手は疲労しないし、雨除け、日除けを充分果たしながらも、母親は子供の手をひけるし、抱いている赤ちゃんの介護も両手でできることになった。また釣り人は餌付けや釣はづしが両手でスムーズにでき、屋外スポーツ観戦中でも両手を使っての飲食が可能になったもので、本発明の波及効果は将に画期的である。リュックと一体化している傘差し具が傘ケースも兼ねているので、従来のように傘ケースの紛失もなくなったし、傘は常にリュック内に収納されており傘忘れの心配もなくなった。傘とリュックは簡単な操作で着脱できるので、風雨が強く人の手による細かい対応が必要な時とか、濡れた傘を日に干す場合等には非常に便利である。

#### 【図面の簡単な説明】

##### 【図1】

【0007】に示す実施例における傘と、一部を破断したリュックとの相関関係を示す斜視面である。

【図2】図1をAA線で矢印の方向に切断した断面図である。

【図3】〔0007〕に示す実施例を人が利用している状態を示す斜視図である。

【図4】〔0008〕に示す実施例の傘差し具修正器の斜視図である。

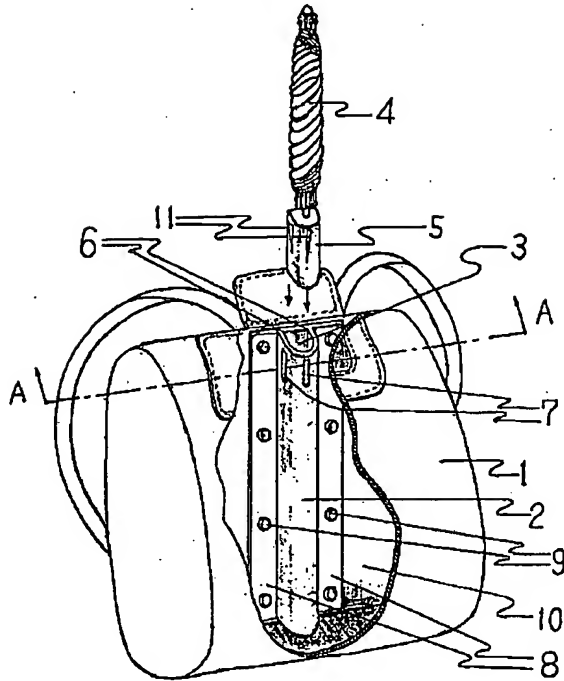
#### 【符号の説明】

- 1 . . . . . リュック
- 2 . . . . . 背板
- 3 . . . . . 位置ずれ防止ポイント
- 4 . . . . . 水平断面
- 5 . . . . . 傘柄
- 6 . . . . . 傘
- 7 . . . . . 傘差し具
- 8 . . . . . 背部壁面
- 9 . . . . . リュックへの係着具
- 10 . . . . . 傘係着具受け孔

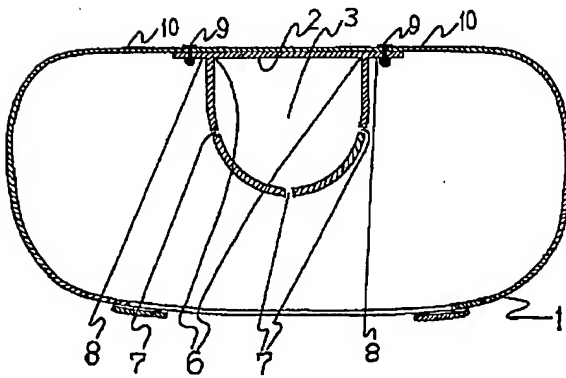
5  
11 ..... 傘係着具

6  
12 ..... 傘差し具修正器

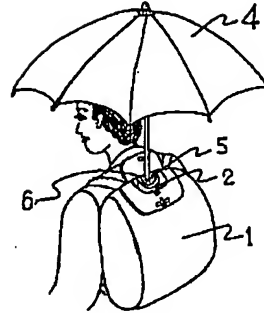
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

